

県立病院ではたらく仲間をつなぐ

2022. 10. 21

病院組合ニュース

No.148

愛知県病院事業庁職員組合

〒460-0001 名古屋市中区三の丸3-2-1

愛知県東大手庁舎内

電話(052)212-8031 FAX(フリアクセス)0120-930-340

メールアドレス byoin@aichikenshoku.gr.jp

発行責任者 谷口和希

職場要求書提出

10月14日、病院事業庁交渉を行い、「令和5年度当初予算計画に関する要求書」を病院事業庁へ提出し、「統一要求の趣旨説明、各分会からの個別要求の説明を行い、現場の切実なる願いを病院事業庁へ伝えました。統一要求の回答は11月中旬、個別要求の回答は1月下旬の予定です。



坂井管理課長(左)に要求書を提出する谷口執行委員長

統一要求

組合アンケートや各分会委員会で出された現場の声を集約し、統一要求で重点的に説明した内容の一部は次のとおりです。

○産休・育休取得者、育児短時間勤務者や部分休業取得者に関する定数の考え方の改善

産休・育児休業取得者・育児短時間勤務者などの増加により、夜勤要員が減り、一人当たりの夜勤が増加し、また勤務時間内でのスタッフが不足し患者対応が十分にできない状況がある。この状況では、産休・育休の取得が取りにくい現状もあり、周囲のスタッフも含め働きにくい状況となっている。

○手術室勤務看護師に危険手当の支給

手術室の看護師は専門的なスキルが必要と

なるうえ、血液暴露や針刺し事故など危険にさらされる可能性が高い。最近では感染症にもより注意を払わないといけないが、感染症の患者もそうでない患者と同様の刃物の取扱いをしなければならず、血液に暴露されるリスクが付きまとう。

○保育士に対しての処遇改善の賃上げ

2022年2月より該当する施設の保育士は期間限定で賃上げの政策の対象となったが、小児センター保育士は該当していない。同じ資格を有する職種に格差が生じることは問題であると考える。

○ヘリコプター搬送時の搭乗手当の支給

ヘリコプターでの患者搬送がある。限られた空間で高度な技術や危険が伴う患者管理が必要であり、技術的・精神的負担が大きい。

○子どもが小学校一年生になったときも働き続けやすい方策の検討

子どもが小学校一年生になったときに、育児関係の短時間勤務ができなくなるため、特に看護師においてそのタイミングで退職するケースが最近見受けられる。人材育成には、時間と費用を必要とし勤務時間の都合だけでなく退職するのは組織にとっても損失である。

○特定行為・認定・専門の有資格者が専従として活動するための定数増員

特定行為・認定・専門の有資格者は、通常業務と専門業務の両方を受け持ち、さらに週休等を利用して業務を行うこともある。二重業務とならないよう、有資格者の業務のみとするため、定数配置が必要である。

○始業前の勤務の現状を確認し、適切な勤務時間の管理を行うこと

始業前の勤務については、必要があれば労働時間として時間外勤務手当を支給することが妥当だといわれているが、組合で行ったアンケートには「始業前時間外勤務が認められない」との意見が多数あった。

○業務中に患者またその家族からの暴言暴力被害についての安全対策の改善

近年、病院職場において、患者、またその家族から暴言・暴力を受けたという事例がある。患者等からの暴言暴力の実態を調査し、安全配慮の観点から病院事業庁主導で、暴言暴力があった場合の対応マニュアルや再発防止策の改善が必要であると考えられる。

個別要求

個別要求で、各分会が説明した項目の一部は次のとおりです。

●がんセンター

・外来化学療法センター
看護師配置の適正化として正規職員の増員

現状の看護師数では病床のフルオープンができず、患者の待ち時間が長くなり不満につながっている。17時でも治療が終わらない患者も多いが、アルバイト職員では遅い時間帯に対応できない。

・有料個室病棟の看護師増員

現在の体制では、休憩を十分にとることも困難な状況であるため、3名夜勤体制を取れるような人員を要求する。

・外来看護師の増員

外来看護師は医師の増員による外来枠の増加、放射線科医師の読影時間確保のための造

影対応など役割が拡大してきた。外来診察継続のためには、各部門の体制強化に沿った人員の増員が必要である。

・放射線治療部の放射線技師の増員

高精度放射線治療の件数増加が見込まれるが、そのためには増員が必要。

・空調設備の整備

施設の老朽化などから適切な温度管理ができていない。改修はされているがまだまだ不十分である。

・看護補助嘱託員の増員

・輸血部の臨床検査技師の増員

・管理栄養士の増員
・第一リハ室の空調の改善

・精神医療センター

・ACT24時間体制に向けた人員増

現在、昼間は患者宅を訪問し、夜間・休日は電話相談に応じてお

り、また緊急の場合は訪問している。増員によりACT本来の機能である24時間365日体制を実現したい。

・研究検査科正規職員の増員

現在常勤1名、時短1名、非常勤2名である。外来からの検体は外来の人手不足により検査科が搬送している。1日の検体搬送量も新型コロナウイルスの影響で増加している中、外来との往復を繰り返

し、本来の検査業務にも支障がでている。時間外を請求できない非常勤で対応するには限界がある。また、脳波検査は2時間ほど1名が専任で業務を行うため、常勤1名での常時対応は不可能である。

・訪問用公用車の更新

安全のためにも更新を希望する。

・デイケアの看護師常勤職員2名配置

・東1病棟の2・3・8配置の定数化

・西3病棟の3・3・8配置の定数化

・薬剤師を4名へ増員

●小児センター

・臨床検査の正規職員2名の増員

小児救命救急センターの活動強化により様々な検査の緊急依頼が増加。多数の検査を夜間1名で行うのは無理があり、またどの検査も緊急度が高いため精神的な負担が大きい。医療事故を防止するためにも夜間勤務する検査人員2名が必要である。

・手術・中材正規看護師5名の増員

現在臓器提供手術も開始されているが看護師不足のために心肺停止下臓器提供には対応できないのが現状である。また、長時間勤務などの問題もある。

・外来看護師の増員

小児の採血や検査、

処置には複数の看護師による介助が必要であり、小児専門病院として様々な患者のニーズにこたえて、専門性の高い看護を提供するには増員が必要。

・臨床工学技士の増員

今後PICU、病棟での補助人工心臓管理業務と並列施行して心臓外科手術が行われるため、増員が必要である。

・非常勤保育士の定数配置

5病棟に正規保育士が配置されている。病棟での保育活動のほかに、治療に関わる支援をしているが、各病棟1名で対応することが困難である。人員が増えれば検査時間等が短縮することにより更に多くの検査や治療の枠が増やせる。病院にとってもメリットが大きい。

・自転車置き場の増設
・駐車場の増設や改善